令和3年度国際理解ワークショップ　タイトル・要旨一覧

大学名	テーマ	代表者名	タイトル	要　旨	WS形式 （対面・オンライン・どちらも可）
新潟国際情報大学	世界の不平等	後藤瞭太	おにぎり一つを大切に ～救えるはずの命を失わないために～	世界には、「食事が十分にとれないこと」と「食事を捨ててしまう」という食の不均衡が存在している。世界で生産される食料の3分の1にあたる13億トンが毎年捨てられており、このうち4分の1が有効に使われれば、飢餓人口の全ての人を救えると言われている。このワークショップでは、「食品ロス」と「飢餓」という2つの問題と向き合うことで食のありがたみや命の尊さを感じる。そして、食の不平等について私たちに何ができるのか参加者と共に考えていきたい。【関連するSDGs：2，10，12番】	対面
		西方健人	Whose lives matter ? –そこに愛はあるんか–	あなたは黒人差別と聞いて自分事に感じるだろうか？歴史上、これまで黒人への差別は社会の色々な場面で見ることができた。現在でもアメリカでは教育や医療、経済においても明らかな格差が生じている。新型コロナウイルスの問題においても、死亡率は白人よりも黒人の方が約2倍高い。また、白人世帯の平均年収は黒人世帯と比べて約1.7倍高い。このように黒人であることで社会的に不利であったり、差別を受けたりする現実をどう考えればいいだろうか。本ワークショップを通して、できるだけ楽しく黒人差別の背景や現状を知ってもらい、命が平等であること、差別の問題が自分たちの問題でもあることを参加者と共に考えていきたい。 【関連するSDGs：10番】	対面
		利根川亮真	学校に通えない子どものヒミツ	私たちの暮らしている日本では、義務教育制度によって、行きたいと望めば学校に通って教育を受けられる仕組みが整っている。しかし途上国では、貧困が原因で学校に通えない問題が発生している。本ワークショップでは、そもそも学校に通う意味からスタートし、教育格差について、私たちができることを考えていきたい。そして、参加者のさらなる学習の入り口になってほしい。 【関連するSDGs：1，4，10番】	対面
	異文化理解	澁谷心都	みんなちがってみんないい ～虹色の明日へ～	世の中には実に多種多様な人が存在するということを意識したことはあるだろうか。多くの多様性が存在するが、このワークショップでは性的マイノリティを例に挙げて、参加者とともに多様性について考えていく。日本国内における性的マイノリティの数は全国民の内8.9%、つまり10人に1人がこれに当てはまる。これは左利きの人の割合とほぼ同じである。しかし、そのような人々を偏見の目で見たり、差別したりする人々も少なからず存在している。ワークショップを通して、参加者には差別・偏見の問題を自分ごととして捉え、それに対する自分の意見を持てるようになってもらいたい。そして、自分を含め身近な多様性に目を向け、寛容に受け入れる姿勢を身につけてほしい。 【関連するSDGs：4，10，16番】	対面
		瀧澤悠	「違う」って、楽しい！？	あなたにとって「違い」とは何だろう？グローバル化が進むにつれ、日常の中でも異文化に触れ合う機会が増えてきた。しかし日本には「空気を読む」という文化が根付いているため、異文化間のコミュニケーションが妨げられている。このワークショップでは、違いを楽しむために一人ひとりが過ごしやすい環境について参加者と共に考えていきたい。「違いの先にある楽しさをいっしょに探しませんか？」 【関連するSDGs：4，8，9，10，16，17番】	対面
敬和学園大学	世界の現実	徳永美月	「普通の生活」ってなんだろう？ ～子どもの貧困を通して考える世界の現実～	日本や外国では貧困が深刻な問題となっている。しかも貧しい国の人が貧困から抜け出すのは難しいことである。本ワークショップでは日本の子どもの貧困の現状を学び、その原因を考え、さらには外国の貧困にも目を向け、貧しい国・地域が貧しい原因は日本を含む先進国側にもあることや貧しい国の子どもたちの働きのおかげで私たちが豊かに暮らせていることを学び、児童生徒が当事者意識を持って子どもの貧困の解決策を考えることができるようなきっかけにしたい。	どちらも可
新潟県立大学	世界の現実	丹治果蓮	NO MORE フードロス ～世界のしょくりょう問題について考えてみた～	日本では身近に感じない「飢餓」などの食に関する問題を、ワークショップを通じて自分たちにも関係があるものだと知ってもらう。身近に存在する「食べ残し」から、フードロスなどの問題に発展させ、世界の食の問題や、問題を改善するためのそれぞれの国の取り組みを紹介し、最後には自分たちには何ができるのかを考えてもらう。全体を通してクイズを織り交ぜて、生徒たちが飽きずに楽しめるワークショップにする。タイトルの「しょくりょう」には、食料問題と食糧問題どちらも含んでいることを意味している。	オンライン
	世界の現実 （英語）	菊地蓮	その1000円で何を買う？ ～欲しいものが手に入らない子どもたち～	財布の中に1000円があったら、あなたなら何を手に入れますか？　1000円という額はみなさんにとっては大金ではないのかもしれません。しかし、世界には一日1．9ドル（約200円）以下で暮らす人も多く存在します。私たちの暮らしと、彼らの暮らし、なぜこんなにも違うのでしょうか。 「貧困」という問題は環境や歴史などの、さまざまな要因が絡み合って生み出されています。2015年の国連サミットで採択された、よりよい世界を目指すための開発目標であるSDGsにも触れながら、「貧困」についてさまざまな角度から考えていきましょう。	どちらも可
新潟大学	世界の現実	菊地友希乃	守るべきは「だれ」の暮らしか	「保護貿易で国内の農家を守るべきか、自由貿易で安くモノを買えるようにすべきか」という問いから貿易の仕組みやフェアトレード、また世界の貧困や飢餓問題を知ってもらう。私たちの暮らしを考えると安さは嬉しいことだが、国内の農家の保護は雇用を守り、国内産業の発展につながる。また、日本は自給率が低く、食事も海外に依拠している。国産品より、輸送費がかかる海外もののほうが安い、つまり世界には安く買い叩かれている人がいる。同じ労働でも国により賃金の格差がある。この是正のために「フェアトレード」が注目され始め、また食料問題や飢餓をなくすべく日本がFAOやWFPという活動を支援していることを説明する。	オンライン
	世界の不平等	佐々木泰生	人種差別とたたかうスポーツ	テニス選手の大坂なおみの言動からBLM運動について議論されたり、欧州でプレーする日本人サッカー選手が差別的発言を受けたことが報道されたりと、スポーツの世界は日本人にとって最も人種問題を可視化しやすい場所であると考えられる。導入ではスポーツ界で起きてきた人種差別とその反対運動の実例を示し、最終的には人種とは何か、人種による差別、不平等をどう無くしていくべきかについて考える。	オンライン
	異文化理解	目黒明日香	日本のなかの外国：エスニックタウン探訪	観光地として有名であったり実は身近に存在していたりするエスニックタウンを取り上げ、そこに住む人々や暮らしについて知ってもらい、日本の多文化共生の現状や問題点について考えていく。導入では、エスニックタウンの写真を用いたクイズなどを通して、日本に住む外国人の暮らしや日本人とのかかわりについて理解を深めてもらう。最終的には文化や言語などの違いによって生じる問題を取り上げ、日本で多文化共生を発展させるには今後どのようなことが必要なのか考えてもらう。	オンライン
上越教育大学	世界の不平等	中嶋能亜	たくさん売れるバナナで貧しい暮らし！？	今日、先進国における農業優占国からの輸入が被輸入国に対し、大きな貧富の格差を生起させてしまっている。本ワークショップでは、フィリピンのバナナを題材に、海外で問題になっている絶対的貧困について、世界の貿易システムの実態を明らかにすることで不平等があることを理解し、それらを解決する手段としてフェアトレードがあることを説明する。身近な事例を焦点化し、他人事から自分事の問題として考えること、またそれによる思考、行動（長期的）の変容を目指すこととした。	対面
	異文化理解	鈴木皓太	あなたは“大丈夫”？	メインテーマは「異文化理解」である。特に留学生とともに中国の文化について同じところや違いを見つけ、まずは中国文化に関するクイズなどの活動を通して自文化を支える「価値観」を認識する。その後、実際に留学生によるリアルな中国の文化を体験する活動で異文化を身近に感じるという原体験を生み出す。「あなたは“大丈夫”?」というシンプルな問いに、異なる視点から見た時の答えはどんなものになるのだろうかを探る。	どちらも可